

琉球人遺骨は風葬に

台湾が返還 研究会、県に要望

台湾大学から県に返還後、県立埋蔵文化財センターが保管している63体分の琉球人の遺骨について、琉球民族遺骨返還研究会の松島泰勝代表（龍谷大教授）らは26日、今帰仁村の百按司墓など持ち去られる以前の墓地に再風葬するよう求める要望書を県教育庁に提出した。

会見した松島さんは「（返還された遺骨は）文化財や研究用の学術資料ではなく、琉球人の祖先祭祀に不可欠な存在」と遺骨への対面を求めた。教育庁側から再風葬や一般公開の方針は示されなかったという。

回訴訟の原告や「支える会」のメンバーは会見で「遺

骨の持ち去りは植民地主義の表れ」「このままでは事実上の盗骨に教育庁が加担することになる」「沖縄のアイデンティティーの破壊」などと訴えた。



台湾から返還された琉球人の遺骨の再風葬を訴える松島泰勝さん（中央）ら。26日、県庁